

# 第18回日本統合医療学会 第17回日本アロマセラピー学会学術総会 レポート

2014年12月20日(土)、21日(日) パシフィコ横浜会議センター

本年は日本統合医療学会との合同開催で例年に増して多くの方が参加されました。初日の受付数は1000人との事です。

超高齢化が進む本邦においては、予防医学を含めた個別化医療の精度向上が望まれます。そういった意味でこの2つの学会では、西洋医学とそれ以外の様々な療法を通じて、どうやって単なる長命から健康長寿にシフトしていくか、また、エビデンスの考え方や、どうやって統合医療の本質やその有効性を「見える化」し世の中に理解してもらうかなどこれからの課題を明確に示しています。(日本統合医療学会理事長仁田新一先生スピーチにて) 今回の学会では合同シンポジウムIにて「統合医療におけるエビデンスとアート」というテーマで鳥居理事長がシンポジストとして登壇し、活発な意見交換を行いました。

また、一般演題にて「精神療法的音楽療法を応用したアロマセラピーにおけるモノアミンバランスの変化による気分的効果と自律神経系変化の客観的測定の検討」の研究結果を発表しました。今回の研究では、脳波と主観評価、血圧、体表温度で、芳香と音楽による気分的効果を検証し芳香や音楽リスニングによる効果の評価法としての大体の方向性は有効であると結論づけています。健康長寿のためには、重篤な病気を防ぐためのセルフヘルスコントロールが重要であり、そのためには自分の気分やその揺らぎによる自律神経のおおよその状態を把握する事は大切です。今後も更に研究を進めていきたいと考えています。

特別企画のゲスト C.W.ニコル氏の講演は、「科学」を語る以前にもっと大事なものがあると痛感させられる内容でした。北に流氷、南にサンゴ礁がある世界でも類を見ないわが国日本。国土の7割弱が森林。自然豊かな国の日本人の心自体がもっと豊かにならなければと講演会場に居た誰もが感じたのではないのでしょうか。

2日目ランチョンセミナー、全日本フレア・バーテンダーズ協会会長 北條智之氏(関内「Nemanja」)による「ミクソロジーから考える健康」は、違った視点から精油を考える大変面白い企画でした。カクテルの最先端ミクソロジーカクテルは、フレッシュのフルーツ、野菜、スパイス等を使用し、何と自ら精油を抽出して使う事も有るそうです。

ミクソロジストが行う、カクテルのブレンド、フレアのパフォーマンス、話術(アート)は、アロマセラピストに通じるものがあると感じました。

2日間を通して沢山の先生方の知見を拝聴でき大変有意義な2日間でした。今後も行政を含む統合医療の動向に注視し T-LAB の活動に役立てていきたいと思えます。

統合医療研究所 T-LAB.